

大学

アーカイブズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2011. 3. 30 No.44

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・西嶋 優「崎元達郎氏「熊本大学の歴史的財産と ユニバーシティ・アイデンティティ」を聞いて」	1
・鈴木勇一郎「全国研究会（テーマ「大学史編纂・史料保存と自校史教育」）に参加して」	3
・椿田 卓士「矢野正隆氏講演 「東京大学経済学図書館・東京大学経済学部資料室の概要」を聞いて」	4
・阿部 裕樹「「国士館百年史編纂事業について」 および「国士館史資料室の活動について」を聞いて」	5
・全国大学史資料協議会2010年度役員会議事録	6
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	7
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	9
・全国大学史資料協議会規約	13
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	14

2010年10月6日～8日 全国大学史資料協議会2010年度総会ならびに全国研究会・記念講演

崎元達郎氏 「熊本大学の歴史的財産と ユニバーシティ・アイデンティティ」を聞いて

東京農業大学図書館 西嶋 優

はじめに

全国大学史資料協議会2010年度総会ならびに全国研究会記念講演が2010年10月6日から3日間熊本大学にて開催された。全国研究記念講演のオープニングとして、前熊本大学学長の崎元達郎氏からの発表があった。

講演の要旨に触れながら、今回の全国大会のテーマである大学史編纂・史料保存と自校史教育に関する特に印象深いところを列記したい。

1. 熊本大学の沿革について

熊本大学の歴史のルーツをひもといっていくと、藩校時代の宝暦6(1756)年までさかのぼり、約250年という歴史と伝統を持ち、かつ非常に複雑な経緯を経て現在に至っている。

では、源流はどこかというと、明確にはわからないが一般的には明治20(1887)年の旧制第五高等学校といわれている。

著名人も多数輩出していて、代表的な人物としては、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎、ギリシャ生まれで英国人のラフカディオ・ハーン（小泉八雲）、「草枕」などを執筆した夏目漱石、元内閣総理大臣を務めた佐藤栄作・池田勇人、北里大学の創設者北里柴三郎などがいる。

2. 熊本大学の歴史的建造物について

前項で名前の挙げられた中でも代表的な人物が銅像、石碑、句碑等として広いキャンパス内にそれぞれ設置されており、キャンパスを闊歩する学生達・教職員・来訪者にわかり

やすい形でレイアウトされている。歴史散策マップまで用意されているので、これを見ながら熊本大学キャンパス内を散策するのも楽しい。キャンパスも広く、学生たちの移動の手段は自転車であり、至る所に駐輪されていた。国指定の重要文化財・登録有形文化財となっている五高記念館、正門（赤門）、工学部研究資料館、事務局本館、化学実験場もあり、明治時代の熊本の代表的な洋風建築で、これらの建物はテレビやドラマのロケ地としてもとても人気があると聞いた。

3. 熊本大学としての歴史資料を生かした研究支援と取組みについて

中でも、五高記念館は、地元のボランティア組織「五高友の会」などからの寄贈による圧倒的な量の資料を持ち、文化庁による新しい観光プラン百選にも採択されており、「わたしの旅～日本の歴史と文化をたずねて」に選定されている。

また、これらの資料を生かして、学芸員養成のための実習場所としても準博物館指定され、あるいは学際科目「五高と近代日本」として開講されて学生のアイデンティティ醸成のための教育の一環としても活用されている。ただ、残念なところは、卒業生からの寄贈品の量が多い上、施設が古いためか温湿度管理、展示ケース、資料の補修といった保存を意識した取り組みを行き渡らせることが難しいようであった。

その他にも阿蘇家文書、永青文庫、時習館文庫、八雲文庫、横井小楠文書、熊薬ミュージアム、水俣病関係学術資料などがあり、それぞれについて研究センター等を設立して現在も研究を進めている。

4.まとめ

UI（ユニバーシティ・アイデンティティ）とは、大学の特徴や個性、目指していくべき大学像を学生と教職員が一体となって認識し、社会へと訴求していくことにより大学のブランドイメージを高めていく活動といえる。

改めて大学の特徴や個性を整理すると下記のような点が挙げられる。

- ①江戸時代の藩校を起源とし、五高、師範、医科大、薬専、工専をひとつにまとめた総合大学であり、それぞれの学部に歴史と伝統がある
- ②光通信や学内LANを早期から整備を行つ



講演する崎元達郎氏

て高度情報化キャンパスを実現している

③平成14年以来28件の教育GPを獲得して教育の質の向上という評価でも全国の大학間でも12位である

④3つのグローバルGPを獲得している

目指していくべき大学像としては、地域に密着した研究拠点大学として、国際社会で活躍できる先導的研究者や高度専門職業人を育成し、地域や国際社会に貢献をするという大きなテーマが掲げられている。資料の整理・保存・研究によって大学の教育・研究上の伝統の明示を行い、大学のアイデンティティの確立とブランド化をはかることができる。つまり、他大学との差別化と生き残り戦略として大学史を活用することが非常に有効である。

大学史編纂においては、単なる事実の羅列にとどまらず、その時代の人々が何を考えてその史実を起こしたかの意志を読み解き、記録することが大事であるという言葉が一番印象的だった。

最後に、この熊本の地は東京農業大学の初代学長の横井時敬の生誕地であり、熊本洋学校（ジェーンズ邸）で若き日を過ごし、現在の多くの大学の前身になっている明治初期の近代教育史の祖となるような人物や、いわゆるバンド達と切磋琢磨をして共に学び、そして教えていたと思うと感慨深いものがある。さらに今年は横井時敬の生誕150年にもあたっており、今回のこの地で行われた全国研究会との何か不思議な深い縁を感じ、初代学長の生い立ちに少しでも触れられたことが大きな喜びであり、これらを現在の東京農業大学の次の世代を担う方々にきちんと引き継いでいくことが私の大きな責務と感じている。

全国大学史資料協議会2010年度全国研究会

全国研究会 (テーマ「大学史編纂・史料保存と自校史教育」)に参加して

立教大学立教学院史資料センター 鈴木勇一郎

今回、全国大学史資料協議会全国研究会では「大学史編纂・史料保存と自校史教育」をテーマとしてとりあげた。熊本大学三澤純、北海道大学近藤健一郎、神戸女学院佐伯裕加恵の各氏がそれぞれの大学の状況を中心に報告された。残念ながら私は所用のため途中で退席せざるをえなかったので、前半しか聞くことができなかった。私が聞いた範囲では自校史教育が特に強く意識されていたような印象を受けた。これはあくまでも前半の報告を聞いての感想なので、その後の議論との関係で見当違いのことを書いているかもしれないが、ご海容いただければ幸いである。

熊本大学の取り組みを報告した三澤純氏は、熊本大学のアイデンティティが旧制五高に偏りすぎている現状を懸念し、他の前身校を再評価することと戦後のあゆみを重視して、今後の『熊本大学60年史』や自校史教育の展開を展望した。この二つの方向性は重要なことで、私も同感である。すでに戦後だけでも60年以上の歳月を経ており、多くの前身校よりも長い時間を刻んでいるからである。

しかし、このことはよく考えて見ると極めて深刻な問題を孕んでいる。一般的に戦前や戦時中のことは、過去のこととしてある程度客観的に扱うことができるのに対して、戦後は三澤氏も指摘するように「治りきっていない傷」であることが少なくない。

熊本大学の場合も、その歩みについての調査および研究を進めるほど、水俣病や女子学生の問題といったさまざまな問題に直面することは充分に考えられる。またこうした姿勢は問題史的な次元だけでなく、場合によっては現在大学を存立させている基盤やシステムそのものを相対化することにもつながっていくかもしれない。ことさらに大学の現状について批判的な姿勢を取らずとも、その来歴を史料に基づいて明らかにしていくことは、現状のシステムを相対化することにもつながるのである。

大学の教育が、中等教育までと異なる点は数多いが、中等教育までは教科書などに書か



パネルディスカッションの様子

れていることを一応正しいものとして学習するのに対して、大学においては物事をいったん相対化して考えるという点がある。

自校史教育も大学の正規の授業として位置づけられている以上、こうした原則が貫徹されるべきであるということは言うまでもない。相対化するということは、歴史学の場合、史料を用いた実証研究が求められる。

だとすると大学の役職者が、建学の精神や今後の方針などを解説するといったものは、評価の対象となる授業として成り立ち得るのかについては、極めて悲観的にならざるを得ない。

自校史教育の主要な目的の一つとしてアイデンティティ形成への寄与が挙げられることが少くない。例えば私立学校のシステムは、その目的である「建学の精神」、その目的に応じて財團を形成する学校法人寄附行為、学校としての基本構成を定めた学則などに基礎を置いているが、実は研究を進めていくと、相対化が進みその正当性すら掘り崩してしまいかねない危うさを秘めている。

多くの私立学校で「建学の精神」としているものの中には、創立当初から再設定や再解釈を繰り返してきていることが少なくない。またどの時点を学校の「創立」と考えるかも難しい問題である。カリスマ的な創立者が目的を明確にして一挙に本格的な学校を立ち上げた場合は、あるいは明快なのかもしれない

が、実際にはそうした学校は決して多くはない。場合によっては、いくつかの源流を持っていたり、私塾的なものから次第に形を変えてきた学校が少なくない。そのような場合、「創立年」や「創立記念日」といった学校の来歴に関わる事柄ですら自明なものではなくなり、いくつかの可能性が生まれてくるのである。

こうした問題は私立学校だけが抱えているわけではない。熊本大学の場合も第五高等学校以外に存在したそれぞれの学校は、それぞれ異なった設置目的を持って創立したものである。各個に分立した各校の歴史を総括し、熊本大学としての一つのアイデンティティを形成していくことは、至難の業であり、ともすれば逆に解体の虞すら少なくないだろう。

このように自校史教育を実施するということは、担当する教員だけでなく、実は学校の理事者にとっても相当な覚悟が求められる。私は自校史教育がアイデンティティ形成への寄与という性格を持つことは否定しない。しかしそれは直接の知識の注入ではなく、学生が自分の学ぶ大学について主体的に考えるきっかけを提供するということが重要であると考えている。私はこうしていったん自らの抛つ

て立つ基盤を相対化することが、それぞれが大学について自分なりに考えるきっかけとなり、長期的に見れば却って確固としたアイデンティティを形成することにつながると思っている。

なお自らの大学について考えるという場合、いくつか方法があり得るだろうが、歴史学の方法論を用いて自らの大学の歴史を読み解いてみるということが、比較的アプローチしやすい方法と言えるだろう。その場合、授業で教員が語る歴史像というものは固定化されたものではなく、あくまでもひとつの枠組みを提示するという位置づけを持つものとなる。

実は、そうした目的に照らすのならば、ゼミ形式が望ましいのだが、今回お話をうかがって各大学でもなかなかその目論見通りにはいっていないところもあるようだ、と言うは易しいが、現実は厳しいことをあらためて痛感した。

今後熊本大学だけでなく、多くの大学で戦後の大学史への取り組みが本格化していくだろうが、その場合大学の現状との距離感が難しいものがある。その中で自校自慢的な大学の歴史に陥らないためには、あえて意識的に研究という観点を強く打ち出し続ける必要があるのではないかと私は考えている。

2010年12月9日(木) 研究会

矢野正隆氏講演「東京大学経済学図書館・東京大学 経済学部資料室の概要」を聞いて

東海大学学園史資料センター 椿田 卓士

今回の研究会は、東京大学経済学部資料室を会場として催された。同資料室は、2010年に新設された学術交流棟（小島ホール）に移転し、閲覧室を設けて新たなスタートをきった。現在資料室は、同じ2010年に改称した経済学図書館の一部門という位置づけがなされており、図書館業務を担当する事務部とともに活動をおこなっている。

講演では、図書館と資料室の沿革、図書館組織についての説明、収蔵資料の概要、資料室の任務と職掌、施設の5点について説明がなされた。資料室は、図書館組織の一部であると同時に、貴重図書や古文書などの特別資料などを取り扱うという点で、専門性のきわめて高い部門として位置づけられているとのことである。資料室長は図書館長が兼任し、その下に文書部門と資料部門とに担当が分け

られている。収蔵資料については、全体の蔵書数が約760,000冊、雑誌タイトル数で約15,600件という膨大な数字であり、また事務部は経済学に関わる文献、社史、マイクロフィルムを保管している。特に、新渡戸稻造先生寄贈の「アダム・スミス旧蔵文庫」や「エンゲル文庫」等は、経済学関係の図書としてきわめて貴重なものである。一方、資料室が所管しているのは、貴重図書、準貴重図書、取扱注意資料、特別資料、博士論文、博物資料といったもので、資料の特殊性による分担が明確にされている。いわば資料室は文書館・博物館としての機能もあわせもつという、特殊な部署でもある。当日配布されたレジュメには、資料室の規則として資料の収集・整理・分析・情報サービスの提供、資料保存に関する調査・研究・開発の実践的活動を行うこと



矢野正隆氏の講演を聞く参加者

が明記されている。こうした点から、資料室は図書館全体における資料保存のマネジメントを担うという、多様かつ重要な業務を担った組織であるという印象をうけた。

講演の後おこなわれた見学では、室員のご案内にて図書館（赤門総合研究棟）および資料室（学術交流棟）の施設をそれぞれ見学した。特に資料室は、2010年に新棟に移転したこともあり、施設としてとても新鮮なものであったが、同時にさまざまなアイデアを反映した機能的な設備となっている。

学術交流棟の3階部分には、資料閲覧室・調査整理室とともに、資料受け入れ時の最初

の通過点である荷解室がある。ここでは、搬入時点での粉塵・生物侵入を防止するため、ドラフト（局所換気扇）等による埃等の除去がおこなわれる。資料は続いて隣接する保存処置室に移され、必要に応じて燻蒸・脱酸等の保存処理が施される。こうした過程を経て整理された資料は、3カ所の保存庫に収納される。また、保存庫にも、床に埃がたまりにくい工法や、紫外線ができるだけカットするための蛍光灯フィルム採用など、資料保存のためのさまざまな工夫が施されていた。その一方では、保存棚の掃除を室員自らはたきをかけて逐次おこなっているとのことである。

今回の施設見学においては、資料を如何に安定かつ長期にわたって保存継承していくかという大きな命題に対する、資料室スタッフのこれまでの研鑽と積極的な取り組みを感じ取ることができたという点で、非常に有意義な機会となった。史資料保存機関にて業務に従事する人間にとって、金銭や人員など恵まれた環境や立場は必要であろう。しかし、与えられた条件下で資料をどう保存し継承していくかについて日々考えを巡らし、工夫し続けることも大切なことではないだろうか。そんな思いを自らの職場における取り組みとつきあわせながら帰途に就いた。

2011年1月27日(木) 研究会

「國士館百年史編纂事業について」 および「國士館史資料室の活動について」を聞いて

明治大学史資料センター 阿部 裕樹

研究会は、2011年1月27日(木)、國士館大学世田谷キャンパス中央図書館4階A Vホールで開催された。研究会では、國士館史資料室室長（國士館百年史編纂委員長）・阿部昭氏が「國士館百年史編纂事業について」、同室員熊本好宏氏が「國士館史資料室の活動について」講演された。

まず阿部氏は、これまでの学校法人國士館における年史編纂事業の経緯と、2017年の國士館創立百周年に向けた年史編纂事業の現状について講演された。要点は、これまで学術的な年史編纂事業の進展が見られなかつたこと、しかし百年史編纂事業においては資料調査と学術的成果に基づいた本格的な年史編纂を目指しているという点にあったと思う。質疑応答の際に、國士館史資料室員から阿部

氏はたいへんな熱意を持って百年史編纂事業にあたられているという話があつたが、筆者も講演からその強い決意を感じることができた。

続いて熊本氏は、おもに國士館史資料室の具体的な活動内容について、ご自身の実務経験なども交えながら講演された。発表レジュメに記された同室の「主たる活動」は、(1)百年史編纂事業の推進、(2)調査・収集、(3)整理・保存、(4)利用・公開であった。筆者は講演から、(1)の百年史編纂事業を中心・長期的な目標と位置付けながら、さしあたっては(2)調査・収集と(3)整理・保存の機能を充実・強化するよう努めているという印象を受けた。本格的な年史編纂を目標とすれば、その前提として資料の調査・収集、

整理・保存がきわめて重要であることは言うまでもない。さらに、2009年4月の国士館史資料室設置から2年に満たないなかで、すでに（4）利用・公開にむけた具体的取り組み（後述の国士館史資料展示室の運営を含む）を始められている点は、特に指摘しておかなければならぬだろう。

講演終了後、国士館史資料室員の案内によりキャンパス内を見学した。常設展である国士館史資料展示室をはじめ、世田谷移転当時の校舎である大講堂や34号館1階のパネル展などを見学した。

最後に質疑応答の時間が設けられ、データベースやホームページのシステム、年史編纂事業の現状、国士館史資料室員の人数やキャリアなどについて質問があった。筆者は、そのうち室員についての質疑に比較的多くの時間を費やしていたように感じた。例えば、国士館史資料室員数（管理職を含めて専任職員4名+嘱託・アルバイト）を多いと感じるか少ないと感じるかは、本研究会参加校の立場や業務内容などによって分かれるところだろう。ただし、国士館史資料室が年史編纂、資料の収集・保存・公開、常設展をはじめとした各種展覧会の企画・運営を含む資料の利用・公開にあたっていること、換言すれば現状の「大学史・大学アーカイブズ」で考えられる、あるいは実践されている業務のほぼ全容をカバーしていることは念頭におかねばなら



講演する阿部昭氏

ないだろう。

たしかに近年の「大学史・大学アーカイブズ」をめぐる議論や実践は、例えば筆者の所属する明治大学において『明治大学百年史』が刊行されていた時期（1986～1994年）と比べると、はるかに進展している。しかし、そうであったとしても、筆者は国士館史資料室が組織の立ち上げとともに多様で活発な活動を進められていることに敬意を表するとともに、同室の今後の活動に注目したい。

以上、筆者なりの参加記として小文をまとめた。筆者の主観、あるいは認識不足の点などがあったかもしれないが、拙い点はご容赦願いたい。

* * * * *

全国大学史資料協議会2010年度役員会議事録 (第105回全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録)

日 時 2010年10月6日(水)13時30分～14時
場 所 放送大学熊本学习センター（熊本大學内）3階大講義室

出 席 (東日本部会)
神奈川大学（会長）慶應義塾（運営委員）國學院大學（監査委員）成蹊学園（副会長）大東文化大学（会計委員）東京経済大学（会計委員）東海大学（副会長）日本大学（事務局）武蔵野美術大学（事務局）中村青志（運営委員）
(西日本部会)
大阪大学（副庶務校）関西大学（会

計校）関西学院（幹事校）神戸女学院（幹事校）同志社大学（会報担当校）広島大学（庶務校）桃山学院（部会長校）立命館（副部会長校）龍谷大学（監査校）小宮山道夫氏（広島大学）の進行で議事が進められた。

議 題 (1)2010-2011年度協議会役員の交代について
「全国大学史資料協議会規約」第6条、第3項にもとづいて役員交代を行い、会長校を桃山学院（西日本部会会長校）、副会長校を神奈川大学（東日本部会会長）、事務局校を広島大学が務めることとし、総会で承認を受けることになった。
(2)2010年度総会・全国研究会の運営

について

各役員の分担が「全国大学史資料協議会2010年度熊本大会分担」に基づき確認された。

(3)2010年度の東西両部会の共同事業について

『研究叢書』12号の編集を西日本部会が担当し刊行することとホームページの運営の見直し検討を継続して行なうことが確認された。

(4)規約の一部改正について

協議会事務局校（広島大学）から規約の一部改正について説明があり、審議の結果了承され、総会に諮ることになった。

(5)その他

東日本部会事務局（武蔵野美術大学）から、次年度全国大会は10月5日(水)～7日(金)に皇學館大学で開催する提案があり、了承された。武蔵野美術大学から、次年度の全国大会は近畿圏で開催してもらいたいとの要望があった。また、協議会リーフレットについて提案があり、いずれも持ち帰り検討することになった。

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録

第106回 2010年10月6日(水)

13時50分～14時05分

会 場 熊本大学放送大学熊本学習センター
3階大講義室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊学園 大東文化大学 東海大学
東京経済大学 日本大学
武蔵野美術大学
中村 青志

議 題 1. 会員の入退会について
事務局（武蔵野美術大学）から、三浦和己氏、倉方慶明氏、愛知教育大学の入会の申込みがあったとの報告があり、これを承認した。
また越知専氏の退会届の提出の報告があり、これを了承した。
2. 「全国大学史展」図録の頒布について
事務局（日本大学）から、関係

者以外で図録を希望する機関・個人等に対して、製作費を部数で割った実費（1600円）で頒布することと頒布方法について提案があり、諮った結果、提案どおり頒布することを決定した。

また、県立レベルの図書館に図録を寄贈することを決定した。

3. その他

[2010年度研究会について]

研究会担当幹事（東海大学）より、今年度の12月以降の各研究会について交渉経過等が報告され、報告された方向で具体化することが確認された。

第107回 2010年12月9日(木)

12時～13時10分

会 場 東京大学大学院経済学研究科
経済学部資料室
学術交流棟（小島ホール）2階
小島コンファレンスルーム
出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
大東文化大学 東海大学
東京経済大学 東洋大学校友会
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学
中村 青志

議 題 (1)2010年度総会・全国研究会総括

事務局（日本大学）より総会参加者数報告があり、次いで会計校（東京経済大学）より総会・全国研究会経費及び東日本部会收支報告がなされた。大都市圏とそれ以外での開催で参加者数に差が生じていること、全国研究会の運営方法、テーマ設定などについて更に検討を加えて次年度に生かすことなどの意見が出された。

(2)2010年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、今年度研究会の概要の再説明と、1月研究会は2011年1月27日(木)国士館大学で開催することが報告された。また、3月研究会について担当校の國學院大學齊藤智朗氏より概要説明があり了承された。

(3)2011年度東日本部会総会について

事務局（日本大学）より、2011年度東日本部会総会会場候補校に對して事務局が交渉することが提案され、了承された。

(4)会報発行報告

会報担当（神奈川大学）より、会報第43号の編集状況について報告があった。当初の予定より遅れたが、12月中旬に発行できる旨報告があった。

(5)協議会リーフレットの改訂について

リーフレットの改訂について、西日本部会が出した要望を審議し概ね了解した。作成方法について1月幹事会にとりまとめることになった。

(6)その他

①東日本部会の英語表記について

事務局（日本大学）より、全国大学史資料協議会の英語表記変更を期に東日本部会名称の英語表記も見直し変更したいとの提案があり、諮った結果、次の通り変更することを決定した。
Japan Association of College and University Archives:Eastern Japan Division

なお、会報・封筒等すでに印刷されているものについては、在庫分はそのまま使い、次回作成分から変更することで了承された。

②展示図録の発送について

事務局（日本大学）より、都道府県立図書館（すでに送付済みの神奈川県立図書館・京都府立図書館を除く55館）へ寄贈発送した旨の報告があった。

③「資料保存セミナー」に対する後援について

事務局（武蔵野美術大学）より、全史料協・企業史料協議会主催平成23年2月4日（金）開催の「資料保存セミナー」に対する後援名義使用の承認依頼について、会長・事務局で計ったうえ承認した旨報告があった。

また、事務局（日本大学）よ

り、セミナー開催の記事を協議会ホームページに掲載することについて提案があり、了承された。

④研究会へのオブザーバー参加について

事務局（日本大学）より、本日開催の第73回研究会に橋本貴氏（株・DIMS）がオブザーバーとして参加希望の旨報告があり、参加が了承された。

第108回 2011年1月27日(木)

13時～13時50分

会 場 国立館大学世田谷キャンパス
中央図書館4F A Vホール

出 席 神奈川大学 慶應義塾大学

國學院大學 大東文化大学

東海大学 東京経済大学

東洋大学校友会 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

中村 青志

議 題 1. 会報の発行について

会報担当（神奈川大学）より、会報43号が12月10日（金）に納品され、14日（火）に発送したことと、また、会報44号については熊本での今年度総会、全国研究会を中心と現在編集中であるとの報告があつた。

2. 今年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、3月研究会を3月17日（木）、武蔵野美術大学新宿サテライトで開催する提案があり、了承された。また、3月研究会担当の國學院大學齋藤智朗氏より概要説明があつた。

3. 2011年度部会総会について

事務局（日本大学）より、2011年度部会総会を6月3日（金）、女子美術大学（相模原キャンパス）で開催する提案があり、提案どおり決定した。

4. 2011年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、2011年度の研究会について本日開催の研究会でアンケートを実施し、その結果を参考にしながら計画を立てたいとの報告があつた。また、

2011年度は研究会を複数校で担当してはどうかとの提案があり、了承された。

5. 協議会リーフレット改訂について

「西日本部会からの要望」を基に検討した結果、これまで2回東日本部会が作成していること、西日本部会の要望も具体的であることなどから、今回改訂するリーフレットは西日本部会で作成することを東日本部会として提案することとなった。なお「入会のご案内」についてはwebのみの受付ではなく、連絡先として東西両部会事務局の電話番号、ファックス番号も掲載することを修正提案することとなった。

6. その他

①研究会へのオブザーバー参加について

事務局（日本大学）より、本日開催の第74回研究会に西日本部会機関会員の追手門学院大学・山本直子氏が参加するとの報告があった。また、国立女性教育会館から2名がオブザーバーとして参加希望の旨報告があり、参加が了承された。

②事務局（日本大学）より、学習院アーカイブズ準備室の公開研究会をHPに掲載したこと、また、その研究会が無事終了したとの連絡が学習院からあったことが報告された。

③事務局（武蔵野美術大学）より、企業からセミナー提携開催の打診があったが、会長校、事務局で協議した結果、断ったとの報告があった。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

名 称 全国大学史資料協議会2010年度全国研究会（第72回東日本部会研究会）

テ マ 「大学史編纂・史料保存と自校史教育」

日 時 2010年10月7日(木)～8日(金)

会 場 10月7日(木)

熊本大学黒髪キャンパス
放送大学熊本学習センター（熊本大學内）3階大講義室
10月8日（金）熊菓ミュージアム・
熊本市歴史文書資料室

出 席 <東日本部会>
愛知医科大学 愛知教育大学
愛知大学 学習院 神奈川大学
慶應義塾 恵泉女学園 成蹊学園
専修大学 國學院大學
国際基督教大学 国士館大学
淑徳大学 女子美術大学
大東文化大学 東海大学
東京経済大学 東京農業大学
東洋学園大学 富山大学
日本体育大学 日本大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学 立教大学
立正大学
中村 青志 西山 伸 野澤 和範
<西日本部会>
追手門学院大学 大阪大学
大谷大学 関西大学 関西学院
熊本大学 甲南大学 神戸女学院
西南学院大学 同志社女子大学
同志社大学 広島大学 福岡大学
桃山学院 立命館 龍谷大学
橋本 弘之
東日本部会分
<機関>28校 (37名)
<個人他>3名 <合計>40名
西日本部会分
<機関>16校 (23名)
<個人他>1名
<合計>24名

開会挨拶 桃山学院大学 西口 忠氏
(全国大学史資料協議会会长校)

全国研究会テーマ

「大学史編纂・史料保存と自校史教育」

テーマの発題 広島大学 小宮山道夫氏
(全国大学史資料協議会事務局校)

報 告 1 三澤 純氏

(熊本大学文学部准教授、熊本大学60年史編纂室副室長)

「熊本大学の歴史的自己認識と自校史教育」

[概要]

三澤氏の報告は、熊本大学にお

いて現在編纂中の『60年史』を念頭に、編纂後その活用の一つとして注目している「自校史教育」のあり方について考えようとしたものである。

熊本大学ではすでに自校史教育を行なっており、基礎セミナー「熊本大学の歴史」や学際科目「五高と近代日本」の実践例が紹介された。これらの特徴として、大学としての組織的取り組みではないこと、選択科目のため受講生が少ないと、戦後の熊本大学の歴史までは目が届かないことなどが指摘された。

基礎セミナー「熊本大学の歴史」については、具体的な授業内容に触れ、セミナーの成果として「新聞集成」が作成されたことや、「大学探検」、「新聞集成」を用いた討論の実施などが報告された。さらに、受講生が強く興味を持ったテーマが紹介され、学生の議論や熊本大学史の論点が披露された。

熊本大学における自校史教育は、現在演習形式で行なっているが、『60年史』編纂後はその成果をふまえ「講義」にまとめ実施したいという。その際には戦後史パートをより充実させたものにしたいと展望が述べられたほか、大学のいわゆる「マイナス面」などをどうとらえ自校史教育に反映させるかなど、「バランス」をキーワードに問題提起がなされ報告を締めくくった。
(齊藤研也)

報 告 2 近藤健一郎氏（北海道大学大学院教育学研究院准教授、北海道大学文書館運営委員会委員）
「自校史教育の現状報告 1—北海道大学での『北海道大学の歴史』のこと」

[概要]

報告者は、2006年10月に北海道大学（以下、北大）に着任、専門は教育史学。北大での自校史教育の取り組みについて自身の経験をもとに報告された。開講の背景として、『北大百二十五年史』編纂

後、2005年5月に文書館が開設し、専任スタッフ2名を中心に行なわれるようになつたことがある。授業は全12学部が履修可能な教養科目、主題別科目、「歴史の視座」の中に位置づけられ、年度によっては開講されないこともある。制度上は、教育学部が開講すべき責任コマの一つとして教育学部所属の報告者を責任教員として、文書館スタッフ等の協力を得て行なっているが、大学として開講されたものではない。一方、大学側の自校史教育としては「北大の人と学問」があり、総長や各学部長が担当、15回2単位の講座を開講している。

報告者が担当する「北大の歴史」の授業は2007年度に開講、今年で4年目である。（詳細は『北海道大学文書館年報』第3号掲載の論文を参照。）科目開講の意図は、学生たちが自分の大学の足跡について史料に基づき札幌農学校時代からたどることにより、自らつながりを時間の流れの中でとらえ、それを通じて北大での学習や生活の意欲形成の一助とすることにある。さまざまな試行錯誤の中、1年目は150名、2年目は200名、3年目が100名とかなり大規模な授業となった。2007～2009年度は講義科目であったが、今年度は学生の関心に応えるための試みとして論文指導授業として開講し、履修者は18名となった。

今後の改善点として、1) 開講時期を新入生が大学に慣れてくる後期にする、2) 授業内容を文献講読と学生の個人調査・発表の2つの柱とする、3) 大学史への基礎的理解を持ちやすいよう工夫する、4) 少人数授業により、個別指導ができるはずが実際は対応できなかつたことの反省、5) 学生が関心を持つ内容のテキストを作りたい、など個人的見解としてが挙げられた。最後にこうした点を踏まえながら今後も他の授業担当

者と協議しながら改善していきた
いという言葉で報告は終わった。
(赤堀美和子)

報 告 3 佐伯裕加恵 氏
(神戸女学院史料室)

「史料活用例としての神戸女学院大
学における自校史教育」

[概要]

1875年誕生の神戸女学院では、
1972年に史料室が設置され、院長
室文書などの学院初期に関するも
のを中心史料が所蔵されている。
同校における自校史教育の前身は
30年以上前にさかのぼり、1976年
度から開講された「大学論」の講
義で『神戸女学院百年史』(抄)を
テキストとして用いながら、大学
とは何かを教えていた。

1997年度より「初期神戸女学院」
(2単位)という自校史講義が始
まり、現在まで続いている。講義
の基本コンセプトは同校の教育理
念と実際を教えることになり、そ
の特色は、所蔵する古いスクエア
ピアノの演奏など、現物を用いて
授業がなされることもある。複
数の担当者によるリレー形式の授
業は、専門分野の詳しい講義がで
きる一方で、講義担当者間の連携
などの課題もある。この授業の準
備のために教員が史料室を訪れたり、
学生が史料室に来室するなど、
神戸女学院では自校史教育と史料
室の連携が実現しており、佐伯氏
は「利用があるから史料は生かさ
れる」という指摘で報告を結んだ。

(中村青志)

総括討論

司 会 小宮山道夫氏 (広島大学)

ゲストコメンテーター

大川 一毅氏 (岩手大学)

パネリスト 三澤 純氏 (熊本大学)

近藤健一郎氏 (北海道大学)

佐伯裕加恵氏 (神戸女学院)

[概要]

テーマは「大学史編纂・史料保
存と自校史教育」であったが、ディ
スカッションは専ら自校教育(自
校史教育)の実践・現状について

の討論が主体となった。

資料を活用した自校史教育につ
いては、資料から歴史的事実を学
習する場、資料から歴史的行動と
考え方を学ぶ場として行っている
という意見が多かった。また、授
業をする立場からは、大学の歴史
を踏まえたストーリーが必要であ
り、自己の大学に起きた事件・紛
争など歴史のマイナス面も学生に
見せることで、自己の学生像を作
り上げていくきっかけ、考えるきっ
かけのような講義を行っていると
いう意見が出た。また、自校史教
育は建学の理念を伝える教育であ
ると理解しているから、大学紛争
は対象外であるという意見もあつ
た。

自校史教育の目標・目的につい
ては、自校史であることを特別に
意識して講義しているわけではな
い、一般教育科目として資料を用
いて考えてみることの事例として
自校史を講義している、アイデン
ティティを育成するために自校史
教育を置いているわけではない等、
自校史教育と帰属意識を高めたい
とすることとは異なるという考
えが示された。愛校心を涵養するた
めに自校史教育を実施している大
学は少ないという大川氏の全国調
査結果を反映している。他方、新
入教職員・職員研修の一環として
行ったり、入学生への博物館・史
料展示室見学、父母への教育懇談
会における説明など、自校史教育
は明らかにアイデンティティの育
成・涵養を目的にしているとい
う意見もあった。

いずれにしろ、現在、大学は教
育の質保証が問われる時代であり、
何のために位置づけているのか、
再考することが必要であると大川
氏が指摘したように、「自校史教
育」は試行錯誤の段階にあろう。

今回、自校史教育について、少
なくとも各大学の状況を確認でき
たことは成果であった。いろいろ
な議論があったが、大学史編纂・

史料保存を主業務とする部署がどのように自校史教育と関わっていくのか、ということについてさらに議論が深まることを期待したい。

(伊藤彰男)

*各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第12号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 神奈川大学 澤木 武美 氏（全国大学史資料協議会副会長校）

見学会 熊薬ミュージアム 熊本市立歴史文書資料室

[概要]

最初に訪れた熊本大学薬学部宮本記念館内の熊薬ミュージアムは、2006年に会館した日本の大学唯一の薬に関するミュージアムである。

その立ち上げから関わった甲斐広文薬学部教授により、ミュージアムの成立経緯について紹介があった。同薬学部は1885（明治18）年創立の私立熊本薬学校をルーツに持つ。戦災を免れた創立以来の図書館所蔵資料をベースとしてミュージアム構想が立ちあがった。立ち上げにあたって内藤記念くすり博物館等の協力も得て試行錯誤の末、ミュージアムがオープンしたことが披露された。同ミュージアム内には薬学部の歴史に加え、同大医学部が調査に大きく携わった水俣病関係資料、卒業生寄贈の実験器具類、卒業生の開発した薬品、そして薬草の陶板画等が展示されている。説明後3班に別れ、ミュージアム展示室および熊本大学附属薬用植物園、旧正門等を見学した。

続いて熊本市歴史文書資料室を訪問した。同資料室は1988年に市制施行百周年記念事業の一つとして行われた『新熊本市史』編纂事業のために収集した7万点の文書類を整理・保存するとともに熊本の歴史研究や、市民へのレファレンス対応をするために、熊本市役所花畠別館内に2004年に設置された。同室の書庫および閲覧室を見学後、散会した。

(村松玄太)

第73回 2010年12月9日(木)
13時30分～16時00分
会場 東京大学大学院経済学研究科経済学部資料室 学術交流棟（小島ホール）
2階 小島コンファレンスルーム

出席 青山学院大学 学習院大学
神奈川大学 慶應義塾 工学院大学
國學院大學 国士館大学
芝浦工業大学 淑徳大学 上智大学
女子美術大学 聖路加看護大学
大東文化大学 拓殖大学 東海大学
東京経済大学 東京電機大学
東京農業大学 東洋英和女学院
東洋学園大学 東洋大学校友会
日本体育大学 日本大学
武藏野美術大学 明治学院
立正大学

東田 全義 青柳小百合
倉方 廉明 中村 青志
野澤 和範

[オブザーバー]

橋本 貴（以上40名）

会長挨拶 澤木 武美氏
(神奈川大学大学資料編纂室)

司会 椿田 卓士 氏
(東海大学学園史資料センター)

概要 第73回研究会は、東京大学経済学部資料室および経済学図書館の見学会を行った。集合会場となった経済学部資料室は、平成21年7月に完成した学術交流棟（小島ホール）の3階、4階、地下1階部分に当たり、はじめに矢野正隆特任研究員から資料室および図書館の概要について報告を受けた。その後、矢野特任研究員、小島資料室長代理、飯野図書運用係長ほかの案内で3班に分かれて施設の見学を行い、説明をしていただいた。

経済学部資料室は、殺虫装置や脱酸処理設備が置かれた学術交流棟への移転によって、学内における貴重図書、準貴重図書、古文書、博物資料などを専門的に取り扱う部署として位置付けられることになった。資料室のスタッフの方々が、限られた予算とスペースの中で合理的・機能的に資料保存がなされるように、創意工夫されているのが印象に残った。

また、見学後の質疑応答では、展示スペースはないものの、日銀の貨幣博物館に次ぐ経済学図書館収蔵の古貨幣・古札コレクションなどを提供することで、学内外の諸機関とのつながりを持つ機会が得られるとのお話があった。
(豊田徳子)

第74回 2011年1月27日(木)

14時00分～17時00分

会 場 国士館大学世田谷キャンパス 中央図書館4階 A Vホール

出 席 神奈川大学 慶應義塾 恵泉女子学園
工学院大学 國學院大學
駒澤女子大学 国士館大学
淑徳大学 上智大学 女子美術大学
創価大学 大東文化大学 拓殖大学
東海大学 東京家政大学
東京経済大学 東京女子大学
東京農業大学 東洋英和女学院
東洋学園大学 東洋大学校友会
日本大学 武藏野美術大学
明治学院 明治大学 立正大学
東田 全義 倉方 慶明
中村 青志 野澤 和範
[オブザーバー]
山本 直子(追手門学院)
市村 櫻子・西村 昭子

(国立女性教育会館) (以上47名)

会長挨拶 澤木 武美氏
(神奈川大学大学資料編纂室)

司 会 椿田 卓士氏
(東海大学学園史資料センター)

概 要 開催校の国士館大学は、自校の歴史資料を将来に継承するため、2009年4月に国士館史資料室(以下、資料室)を開設した。資料室では2017年に迎える国士館創立百周年に向けて、百年史編纂事業が進められている。今回は、資料室の活動概要に関する説明会と、展示室など諸施設の見学会が行われた。

阿部昭資料室長による「国士館百年史編纂事業について」では、百年史編纂事業に至る歴史的経緯と、関連する事業として、国士館史研究年報『楓原』の刊行のほか、現在取り組んでいる資料室のアーカイブズおよび展示機能の整備と自校史教育へ

の活用に関する説明がなされた。次に、資料室の熊本好宏氏による「国士館史資料室の活動について」では、資料室の目的や組織・施設に関する概要のほか、①百年史編纂事業の推進、②学内外にわたる校史資料の調査・収集、③目録作成や修復を含めた資料の整理・保存、④ホームページの活用やレファレンス対応のほか、初年次教育での講義支援や展示室での特別企画展の主催、研究年報の発行といった教育普及活動を通じての資料の利用・公開の、大きく4つの主たる活動についての説明がなされた。特に校史資料の調査・収集では、専門学校(旧制)時代の卒業生・遺族に向けて資料提供依頼のアンケートを実施したことなどが報告された。続いて2グループに分かれて、大講堂や先覚者墓所、資料室、展示室などの見学が行われた。研究会の最後に質疑応答がなされ、数多くの質問が寄せられた。このうち、展示作業と年史編纂事業との作業配分の比重についての質問に対しても、両作業は結びつくものとして活動しているとの回答がなされた。このほか、資料室の規模がこのように大きなものとなったのはなぜか、また資料室員に求められる専門性とはなど、積極的な活動を展開している資料室に向けて大きな関心が寄せられた。

(齊藤智朗)

全国大学史資料協議会規約

(名称)

第1条 この協議会は、全国大学史資料協議会(Japan Association of College and University Archives)と称する。

(目的)

第2条 この協議会は、大学史に関する情報交換と研究、並びに会員相互の質的向上と交流をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

(1) 大学史に関する情報交換

- (2) 史資料の収集、保存、利用に関する研究
- (3) 研究会(研修会)、講演会の開催
- (4) 会報等の発行
- (5) その他、前条の目的遂行に必要な事項

(会員)

第4条 会員は、第5条に定める部会に属する大学・短期大学等の機関及び個人とする。

(部会)

第5条 この協議会に次の部会を置き、部会規約は各々別に定める。

- (1) 東日本部会
- (2) 西日本部会

(役員会)

第6条 この協議会に役員会を置く。

- 2 役員会は第5条に定める部会の幹事校によって構成され、協議会の運営を協議・決定する。
- 3 役員会に会長校・副会長校・事務局校を置く。会長校・副会長校は各部会長校が2年ごとに交代で勤め、事務局校は役員会の互選により選出する(任期2年)。
- 4 役員の交代は総会において承認をうける。

(総会)

第7条 総会を年1回(10月)開催する。総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。なお、欠席届をもって委任状とみなすことができる。

- 2 総会審議は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(会計)

第8条 会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(経費)

第9条 この協議会に必要な経費は各部会より支出し、経費按分については事業ごとに役員会において決定する。

(規約の変更)

第10条 この規約は、総会出席会員の過半数の賛同をもって変更することができる。

付 則

この規約は1996年4月1日より施行する。
1998年9月30日、第1条改正(英文名称)

2003年10月1日、第7条改正(委任状規定、第2項追加)

2009年10月14日、第4条改正(個人会員明記)

2010年10月6日、第1条・第7条・第10条改正(英文名称、会員権限規定表記の統一)

全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿 (2011年1月27日現在)

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義・
鈴木 秀幸

【機関会員】担当部課室／住所・電話他

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ
〒480-1195 愛知郡長久手町
大字岩作字雁又21
電話:0561-62-3311 (内) 1265
FAX :0561-62-4662
- 2 愛知教育大学
大学教育・教員養成開発センター
愛知教育大学史資料部門
〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢1
電話/FAX :0566-26-2293
- 3 愛知大学 豊橋研究支援課
〒441-8522 豊橋市町畑町1-1
電話:0532-47-4579
FAX :0532-47-4129
URL :<http://www.aichi-u.ac.jp>
- 4 青山学院 資料センター
〒252-5258 神奈川県相模原市
中央区淵野辺5-10-1
大学相模原キャンパスN403
電話:03-3409-6742
(内線:11345, 11346)
FAX :03-3409-8134
URL :<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/index.html>
- 5 学習院 アーカイブズ準備室
〒171-8588 豊島区目白1-5-1
電話:03-3986-0221 (内2531)
FAX :03-5992-1394
- 6 神奈川大学 大学資料編纂室
(会長)
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
電話:045-481-5661
FAX :045-491-7915
URL :<http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>

- 7 関東学院 学院史資料室
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
電話:045-786-7066
FAX :045-786-2932
URL :<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>
- 8 慶應義塾 福澤研究センター
(運営委員)
〒108-8345 港区三田2-15-45
電話:03-5427-1604
FAX :03-5427-1605
URL :<http://www.fmc.keio.ac.jp>
- 9 恵泉女学園 史料室
〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1
電話/FAX :03-3303-6920
- 10 工学院大学
創立125周年記念事業事務室
(125年史編纂委員会事務局)
〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2
電話:03-3340-1496
FAX :03-3345-0228
- 11 皇學館 館史編纂室
〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704
電話:0596-22-6817
- 12 國學院大學 校史・學術資産研究センター
(監査委員)
〒150-8440 渋谷区東4-10-28
電話:03-3797-3684
FAX :03-5466-9237
URL :<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/>
- 13 国際基督教大学 図書館大学史資料室
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
電話:0422-33-3306, 3308
FAX :0422-33-3305
- 14 国士館 国士館史資料室
〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1
柴田会館2階
電話:03-3418-2691
FAX :03-3418-2694
URL :<http://www.kokushikan.ac.jp>
- 15 駒澤女子大学 広報部
〒206-8511 稲城市坂浜238
電話:042-331-1911
FAX :042-331-1919
- 16 駒沢大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話:03-3418-9613
FAX :03-3418-9611
URL :<http://www.komazawau.ac.jp/-zenbunka>
- 17 実践女子学園 総務部学園史資料室
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8945
FAX :042-585-8808
- 18 芝浦工業大学 入試・広報部広報課
〒135-8548 江東区豊洲3-7-5
電話:03-5859-7070
FAX :03-5859-7071
URL :<http://www.shibaura-it.ac.jp>
- 19 自由学園 自由学園資料室
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15
電話:042-422-3111 (内) 217
FAX :042-422-1078
URL :<http://www.jiyu.ac.jp/>
- 20 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701 千葉市中央区大巣寺町200
電話:043-265-7526
FAX :043-265-8310
- 21 上智大学 資・史料室
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX :03-3238-3539
URL :<http://www.sophia.ac.jp>
- 22 女子美術大学 歴史資料室
〒252-8538 相模原市南区麻溝台1900
電話/FAX :042-778-6754
- 23 聖学院 本部理事長室
〒114-8574 北区中里3-12-2
電話:03-3917-8332
FAX :03-3940-3798
- 24 成蹊学園 史料館
(副会長)
〒180-8633 武藏野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3994
FAX :0422-37-3298
URL :<http://www.seikei.ac.jp>
- 25 成城学園 教育研究所
〒157-8511 世田谷区成城6-1-20
電話:03-3482-1484
FAX :03-3482-5272
URL :<http://www.seijogakuen.ed.jp/>
- 26 聖路加看護大学 大学史編纂・資料室
〒104-0044 中央区明石町10-1
電話:03-3546-0770
FAX :03-3446-3575
- 27 専修大学 総務部大学史資料課
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX :03-3265-5923

- 28 創価大学 創価教育研究所
 〒192-8577 八王子市丹木町1-236
 電話:042-691-5623
 FAX :042-691-5654
 URL :<http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/>
- 29 大東文化大学 大東文化歴史資料館
 (大東アーカイブス)
 (会計委員)
 〒175-0083 板橋区徳丸2-19-10
 電話:03-5399-7646
 FAX :03-5399-7647
 URL :<http://www2.daito.ac.jp>
- 30 拓殖大学 創立百年史編纂室
 〒112-8585 文京区小日向3-4-14
 電話:03-3947-7140
 FAX :03-3947-7294
- 31 玉川大学 教育博物館
 〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
 電話:042-739-8656
 FAX :042-739-8654
 URL :<http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 32 多摩美術大学 大学史編纂室
 〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34
 電話:03-3702-1168
 FAX :03-3702-9416
- 33 千葉商科大学 総務課史料編纂担当
 (休会中)
 〒272-8512 市川市国府台1-3-1
 電話:047-372-4111
 FAX :047-373-4283
- 34 中央大学
 入学センター事務部大学史編纂課
 〒192-0393 八王子市東中野742-1
 電話:0426-74-2132 (直)
 FAX :0426-74-2203
- 35 津田塾大学 津田梅子資料室
 〒187-8577 小平市津田町2-1-1
 電話:042-342-5219
 FAX :042-342-5249
- 36 東海大学 学園史資料センター
 (副会長)
 〒259-1292 平塚市北金目4-1-1
 東海大学同窓会館2F
 電話:0463-50-2450
 FAX :0463-50-2449
 URL :http://www.u-tokai.ac.jp/shiryo_center/
- 37 東京家政大学
 東京家政大学広報連絡会議
 (総務部総務課)
 〒173-8602 板橋区加賀1-18-1
 電話:03-3961-0038
 FAX :03-3961-1929
- 38 東京基督教大学 歴史資料保存委員会
 〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
 電話:0476-46-1131
 FAX :0476-46-1405
- 39 東京経済大学 秘書課
 (会計委員)
 〒185-8502 国分寺市南町1-7-34
 電話:042-328-7955
 FAX :042-328-5900
 URL :<http://www.tku.ac.jp/U/facilities/f06yayoi.html>
- 40 東京女子医科大学
 史料室・吉岡彌生記念室
 〒162-8666 新宿区河田町8-1
 電話:03-3353-8111 (内22213)
 FAX :03-3353-8209
 URL :<http://www.twmu.ac.jp/U/facilities/f06yayoi.html>
- 41 東京女子大学
 大学運営部総務課大学資料室
 〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1
 電話:03-5382-6294 (直通)
 FAX :03-3395-1037
 URL :<http://office.twcu.ac.jp/general-affairs/archives>
- 42 東京電機大学 経営企画室
 〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
 電話:03-5280-3411
 FAX :03-5280-3566
 URL :<http://www.dendai.ac.jp/>
- 43 東京農業大学 図書館
 〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1
 電話:03-5477-2525
 FAX :03-5477-2639
- 44 東北学院 庶務部広報課
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
 電話:022-264-6423 (代表)
 FAX :022-264-6478
 URL :<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 45 東北大大学 史料館
 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
 電話:022-217-5040
 FAX :022-217-4998
 URL :<http://www2.archives.tohoku.ac.jp>

- 46 東洋英和女学院 史料室
 〒106-8507 港区六本木5-14-40
 電話:03-3583-3325 (代)
 FAX :03-3583-3329 (直)
 URL :<http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 47 東洋学園大学 東洋学園史料室
 〒113-0033 文京区本郷1-26-3
 電話:03-3811-2840
 FAX :03-3811-5176
 URL :<http://www.tyg.jp/tgu/toyo/archiv.html>
- 48 東洋大学 井上円了記念学術センター
 〒112-8606 文京区白山5-28-20
 電話:03-3945-7555
 FAX :03-3945-7601
 URL :<http://www.toyo.ac.jp/enryo/index.html>
- 49 東洋大学校友会
 (監査委員)
 〒113-0021 文京区本駒込1-10-2
 甫水会館内
 電話:03-3946-9111
 FAX :03-3946-6311
 URL :<http://www.toyo.ac.jp/koyukai>
- 50 獨協学園 資料センター
 〒340-0042 草加市学園町1-1
 電話:048-946-2800
 FAX :048-942-4312
 URL :<http://www.dac.ac.jp/>
- 51 富山大学 学務部学務グループ
 〒930-8555 富山市五福3190
 電話:076-445-6031
 FAX :076-445-6034
- 52 名古屋大学 大学文書資料室
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 電話:052-789-2046
 FAX :052-788-6222
 URL :<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp>
- 53 南山大学 史料室
 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
 電話:052-832-3111 (内3120・3121)
 FAX :052-833-6985
- 54 日本工業大学 総務課 (休会中)
 〒345-8501 南埼玉郡宮代町学園台4-1
 電話:0480-34-4111 (代)
 FAX :0480-34-2941
- 55 日本女子大学 成瀬記念館
 〒112-8681 文京区目白台2-8-1
 電話:03-5981-3376
- 56 日本体育大学 図書館
 〒158-8508 世田谷区深沢7-1-1
 電話:03-5706-0907
 FAX :03-5706-0913
 URL :<http://library.nittai.ac.jp/lib/~index.html>
- 57 日本大学 広報部大学史編纂課
 (運営委員・事務局)
 〒359-0003 所沢市中富南4-25
 電話:04-2996-4571
 FAX :04-2996-4592
 URL :<http://www.nihon-u.ac.jp>
- 58 法政大学
 図書館事務部総務課大学史担当
 〒102-8160 千代田区富士見2-14-17
 電話:03-5212-4108
 FAX :03-5212-4109
 URL :<http://www.hosei.ac.jp/>
- 59 北海道大学 大学文書館
 〒060-0808 札幌市北区北8西5
 北海道大学附属図書館4階
 電話/FAX :011-706-2395 (内線2395)
 URL :<http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/>
- 60 宮城学院 資料室
 〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
 電話:022-279-7765
 FAX :022-279-4667
 URL :<http://www.mgu.ac.jp>
- 61 武蔵学園 記念室
 〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1
 電話:03-5984-3748
 FAX :03-5984-4785
 URL :<http://www.musashi.jp/archives>
- 62 武蔵野美術大学 大学史史料室
 (運営委員・事務局)
 〒187-8505 小平市小川町1-736
 電話:042-342-6091
 FAX :042-342-9547
 URL :<http://www.musabi.ac.jp/history>
- 63 明海大学
 浦安キャンパスメディアセンター
 (図書館)
 〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目
 電話:047-350-4997
 FAX :047-355-7992
 URL :<http://opac.meikai.ac.jp/>

- 64 明治学院 歴史資料館
〒108-8636 港区白金台1-2-37
電話/FAX :03-5421-5170
URL :<http://www.siryokan.meijigakuin.jp/>
- 65 明治大学 大学史資料センター
(運営委員)
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085・4329
FAX :03-3296-4086
URL :<http://www.meiji.ac.jp/history/>
- 66 明星大学 明星教育センター
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
電話:042-591-6534
FAX :042-591-6949
- 67 立教女学院 学院資料室(休会中)
〒168-8616 杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
FAX :03-3334-8393
URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo/>
- 68 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
電話/FAX :03-3985-2790
URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/web/z3000450/index.html>
- 69 立正大学 総務部総務課
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX :03-5487-3338
URL :<http://www.ris.ac.jp>
- 70 早稲田大学 大学史資料センター
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町513
早稲田大学研究開発センター
120-1号館5階
電話:03-5286-1814
FAX :03-5286-1815
URL :<http://www.waseda.jp/archives/>
- 8 小川千代子(国際資料研究所)
9 神谷 智(愛知大学文学部)
10 北村 和夫(聖心女子大学文学部)
11 倉方 慶明(東京外国语大学大学院
博士前期課程)
12 坂口 貴弘(学習院大学大学院人文科学
研究科アーカイブズ学専攻)
13 谷本 宗生(東京大学史史料室)
14 佃 隆一郎(愛知大学東亜同文書院大学
記念センター/オープン・
リサーチセンター)
15 寺崎 弘康(神奈川県立歴史博物館)
16 中村 青志(運営委員・東京経済大学)
17 中村 治人(岡崎女子短期大学)
18 中村 賴道(企業史料協議会)
19 西山 伸(京都大学大学文書館)
20 野澤 和範
21 橋本久美子(東京芸術大学音楽学部学史
編纂室)
22 藤田 正(愛媛県歴史文化博物館)
23 古郡 信幸(清泉女子大学)
24 細井 守(藤沢市教育委員会生涯学習
課博物館準備担当)
25 三浦 和己(株式会社 IMAGICA 東京映
像センター/フィルムプロセ
ス部)
26 吉川 隆博

ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申しへは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】

〒359-0003
埼玉県所沢市中富南4-25
☎ 04-2996-4555

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505
東京都小平市小川町1-736
☎ 042-342-6091

会報編集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661